

東日本大震災被災地からの手紙  
**高尾山募金活動に**  
**御協力頂いた皆様へ**

先日は、亡くなったあの子達の為、被災した皆の為に、募金活動で集まった貴重なお金を届けて頂き、感謝の思いでいっぱいです。

あの日から五年・・・私は、今でも当時の映像を見る事も、当時の様子を聞く事も出来ません。あの子達を助けてあげる事、守ってあげる事が出来なかった事を思うと、今でも胸が痛みます。時が過ぎれば、あんなに大変だった震災も、皆の記憶から薄れて行くのも仕方ない事だと思えます。でもね、私は忘れません。あの子達の事、あの子達が大好きだった大川の事、そして、大好きなお友達と学んだ大川小学校の事。私、震災の年から小学校の近くに、ひまわりを

を咲かせてくれました。それから毎年お盆の月には、ひまわりを咲かせる事が出来ました。沢山の皆さんのご協力と優しさに支えられ、私達の今があると思えます。本当に皆様へ感謝感謝です。



この度頂いた募金活動のお金も、花の種や花の苗、肥料代に大切に使用して頂きます。皆様のご健康とご多幸を石巻の地より祈っています。ありがとうございます。



ガレキのあった場所に咲くヒマワリ

ここに皆様方の心温まるご芳情に対し謹んで感謝申し上げますと共に活動のご報告をさせて頂きます。高尾山では、今後も義援金を募り、被災された方々へお見舞に伺い、直接お届けする活動を継続して参りますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。 大木山 高尾山

おはなし散歩道

あめふりぼうず

柏市 木村 研

あるところに、なきむしの子が、いっしょに遊ぶぼうずがいました。

「なきむしぼうず」です。だれが作ったか知らないけれど、男の子が、水性ペンで顔を書いていました。

でも、失敗して、「へんな顔になっちゃった」

と、ごしごしふいていたら、にじんで、顔が黒くなっちゃいました。

だから、男の子は、「しっぱいだ。こんななきむしぼうずなんか、いらない」

と、窓から外に、ほうりだしたのです。

夜になりました。星のない、暗い夜です。「こわいよー」

なきむしぼうずが、泣きべそをかくと、水性ペンがとけて、ほほを黒い涙

がつつたて流れました。顔は、ますます黒くなりました。

だから、なきむしぼうずは、もつとかなしくなると、大声で泣きました。もつと強くなりました。

そのとき、いきなりまどが開きました。「うるさい。明日は、遠足なのに、おまえのせいで、雨になっちゃったぞ。おまえみたいな、なきむしぼうず、もう、どっかに引っっちゃえ」と、いきました。

だから、なきむしぼうずは、悲しくなって、泣きながら、どんどん逃げていきました。

泣きながら、いろんなうちにきました。でも、どこのおうちでも、

「おまえのせいで、雨になっちゃったんだぞ。おまえな

んか、きらいだ。どっかに引っっちゃえ」と、いわれます。

しかたがないので、なきむしぼうずは、町をでて、たんぼにでました。たんぼの中のほそい道を歩いていると、

「ケロケロ、なきむしぼうずだつて？」

「ケロケロ、あいつが泣いて！」

「ケロケロ、ほんとだ、雨が強くなったぞ」と、かえるたちがあつま

つてきて、「うれしいな」「うれしいな」

「いっしょにあそぼうよ」と、びよんびよん、とびはねはじめました。



すると、楽しくなつて、なきむしぼうずも、「うふっ」と、わらいました。なきむしぼうずがわらうと、雨がやみました。「なーんだ。つまんないの」

それなのに、「つまんないよ。雨がふらないんなら、うちに帰ろう」

と、かえるたちは、びよんびよん、草むらにはいつていきました。

「みんな、帰っちゃろう？」

なきむしぼうずは、かなしくなりました。

かなしくなつて、涙がでそうになると、

「泣くんなら、うちで泣きなよ」と、かえるがいました。「えっ。いいの？」

「いいとも。ぼくたち、みんな、雨が大好きだからさ」

「ありがとう」その日から、なきむしぼうずは、かえるのうちで、いっしょにくらすことになりました。なきむしぼうずは、いつのまにか、かえるたちから、

「あめふりぼうず」とよばれるようになりました。かえるたちは、雨がほしくなると、あめふりぼうずといっしょに、たんぼのあぜにならんで、なかよくうたいます。

あめ あめ ふれ ふれ ケロ ケロ ケロ ケロ ケロ ケロ

かえるのうちは、いつまでも、いつまでもつづきます。

(おわり)

(さし絵・小出 茂)